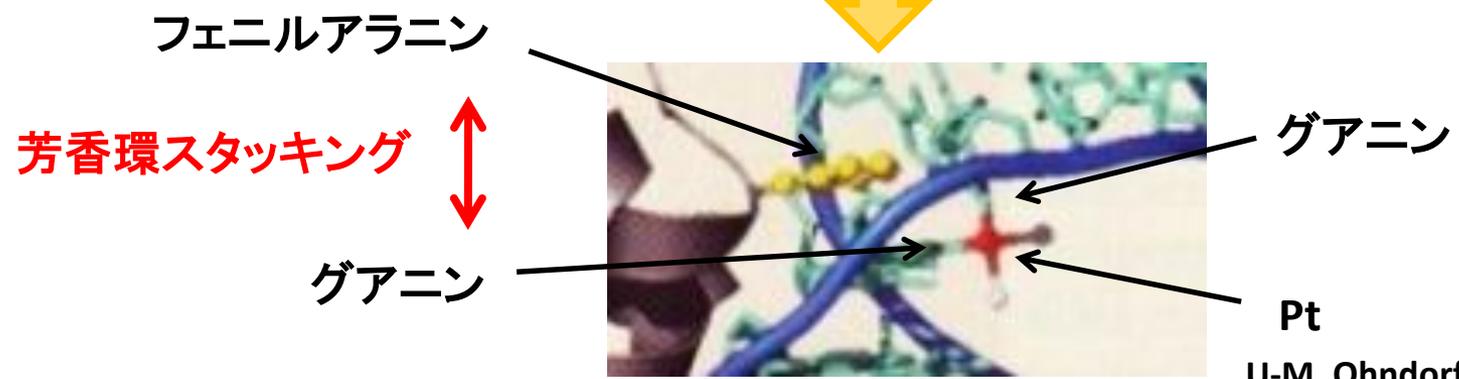
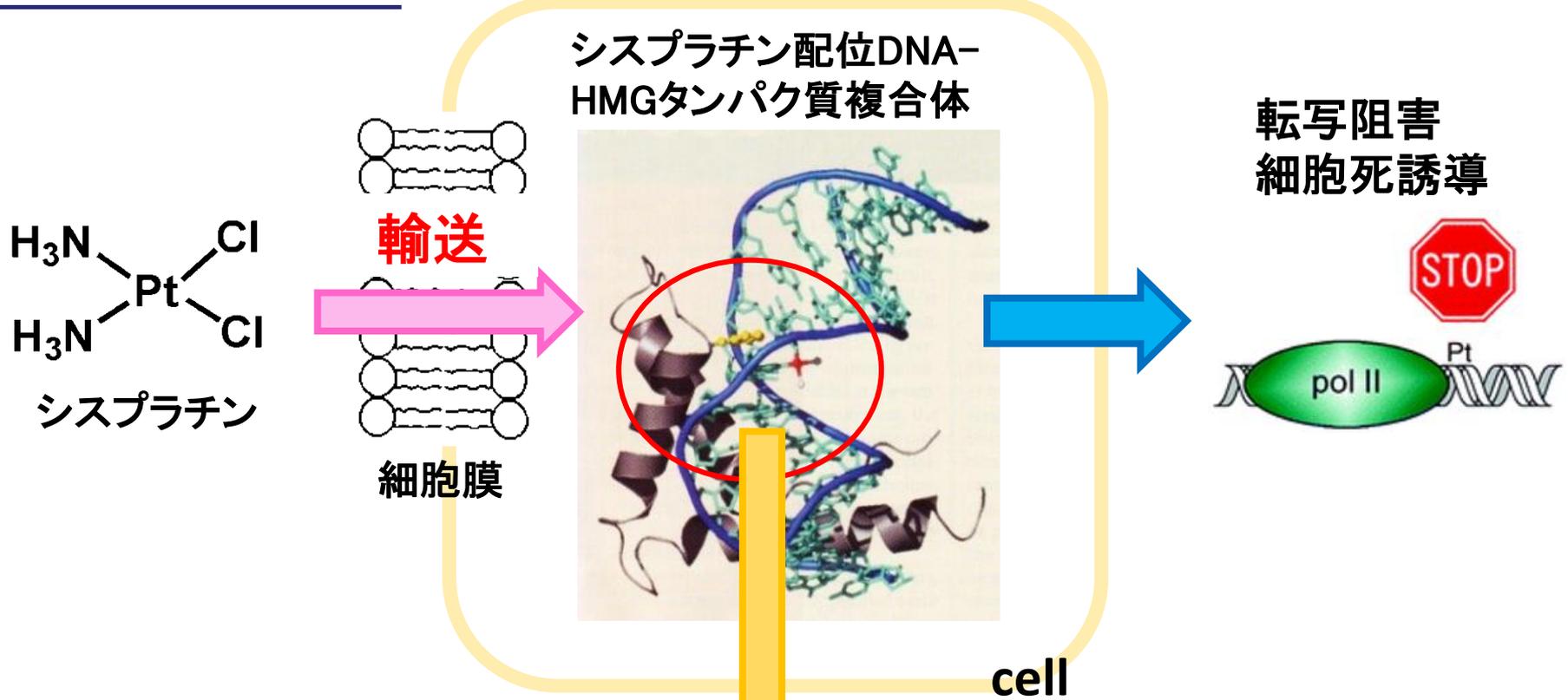


抗腫瘍効果を期待する 新規Pt錯体の放射標識による動態評価

○坂林加奈子¹、小川数馬¹、林良彦²、高橋成人²、吉村崇³、篠原厚²、小谷明¹
(¹金沢大医薬保、²大阪大院理、³大阪大RIセンター)

Introduction

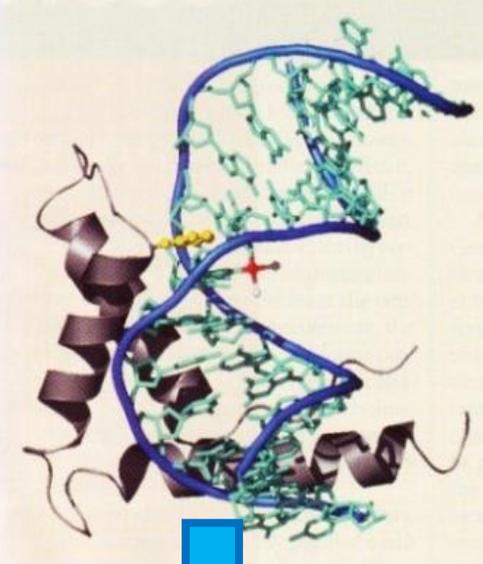


* HMG = high mobility group proteins

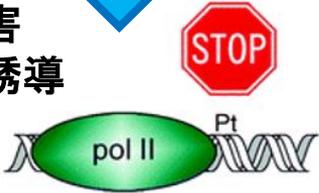
U-M. Ohndorf, et al.
Nature, 399, (1999).

Introduction

シスプラチン配位DNA-HMGタンパク質複合体

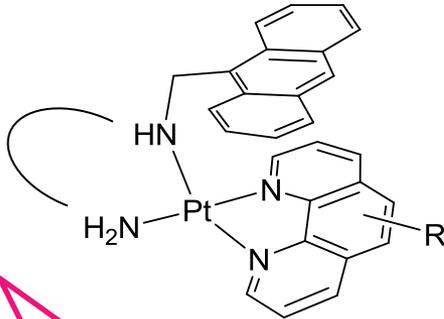


転写阻害
細胞死誘導



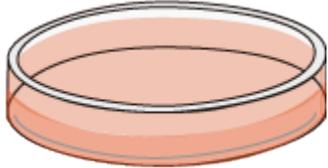
化学特性:
Pt によって誘起された芳香環スタッキング

モデル化
➔



複合体をモデル化
することで抗腫瘍
効果を期待

In vitro assay



In vivo assay



Summary

- Pt(phen)(9-IAAtC3)の ^{125}I 、 ^{191}Pt による標識に成功し、それぞれ放射化学的純度95%以上で得られた。
- 体内分布実験において、 ^{125}I Pt(phen)(9-IAAtC3)、 ^{191}Pt (phen)(9-IAAtC3) の2種類の錯体は異なる放射能分布を示したことから、錯体は体内で代謝を受けて分解して存在することが示唆された。



今後さらにPt錯体のin vitro, in vivoでの挙動を評価・検討し、作用メカニズム解明に役立てる。